

九州大学総合研究博物館 ニュース

The Kyushu University Museum News

創刊号

念願の総合研究博物館

九州大学
総 長

杉岡 洋一

総合研究博物館の設置は、総長就任直後から抱いた幾つかの重要課題の1つであった。その理由は、第1に本学の約一世紀の歴史の中で、先達の研究活動によって齎された、西日本やアジアを中心とした貴重でかつ膨大な数の学術標本が各部局に分散収納され、劣化の危険があることである。またその中には希少種や絶滅種など再度手にすることの困難なものも多く含まれており、DNA解析やその他の最新の分析手段を駆使すれば、本学にとって学問的価値の高いものばかりで、良好な環境下での一元的管理保存が急がれると同時に、分類整理を進め実証的教育や学際的研究に供することにより、計り知れない教育・研究効果を本学に齎すと考えたからである。その上、本学は移転計画が進行中で、移転開始前に所蔵標本の確認、分類作業とそのデータベース化を終了しないと、貴重な学術標本の散逸、破損は免れないわけで、理想的には移転地に早期に博物館を建設し、移転作業前に学術資料の収納を終えておくことも念頭においたからである。

この考えのもとに、1996年初頭より検討作業に入り、11月に設置準備委員会を発足させ、志垣嘉夫比較社会文化研究科長に副委員長をお願いし実務を担当していただいた。委員会の調査によって、日本人の起源解明の研究資料となった3000体の出土古人骨と膨大な考古学資料、380万点の昆虫標本、環太平洋地域産白亜紀アンモナイト・イノセラムス化石を中心とした約8000点の化石標本、5600点の東アジア産鉱物標本、インド洋・太平洋の稚魚を中心とした200万点を超える水生生物標本、約25000点の植物標本などの存在が明らかにされた。この間、志垣先生が急逝されると言う不運に見舞われたが、有馬前研究科長、嶋研究院長のご尽力と、あるときは徹夜に近い実務をこなしていただいたワーキング・グループ委員(青木義和・中田正夫教授(理)・中園明信・湯川淳一教授(農)・牧之内顕文教授(シ情)・田中良之教授・西弘嗣助教授(比文))のほか、佐野弘好教授(理)・緒方一夫助教授(熱研)・望岡俊宏助手(農)等数多くの教官・事務職員の献身的なご努力によって、念願の総合研究博物館が2000年度に設置

される運びとなった。

また概算に向けての実績づくりと地味であるが永年大学で行われている基礎研究の重要性を社会に認識していただくために、ユニバーシティミュージアム先行展示(「倭人の形成」(比文)、「雲仙普賢岳の噴火とその背景」(理)、「寄生虫学の展開と医の文化」(医))、第1回公開展示「森・水・人」(農・演習林等)を総長裁量経費を用いて行ったが、これも担当部局の大変なご尽力により大成功を収めることができた。また、高田健次郎名誉教授(理学研究科長)の企画によるインターネット博物館も画期的成果を収め、博物館構想の実現に大きく寄与していただいた。

このような実務に当たって下さった多くの教職員の方々の血のにじむようなご尽力と、全学を挙げての御支援があった、はじめて総合研究博物館が実現したわけで、紙面を借りて深謝申し上げる次第である。今後、湯川淳一初代館長のもとで、先行設置された他大学博物館を凌ぐ理想的な世界に誇る博物館づくりが進み、本学の将来にとって最も価値ある研究博物館として機能することを願って止まない。

総合研究博物館の役割

九州大学総合研究博物館
館 長

湯川 淳一

待望の九州大学総合研究博物館が4月1日にオープンしました。九州大学は、これまでの様々な研究で蓄積された膨大な数の標本や資料を持っています。この博物館の重要な仕事の一つは、個々の研究室などに分散して保管されているこれらの貴重な標本や資料を一元化して保存・管理を行い、誰もが教育や研究に利用し易い状態にすることです。標本や資料の情報を順次データベース化し、インターネットでアクセスもできるようにします。また、私たちは今後も新たな標本や資料の調査・収集活動を行うとともに、研究成果の公開展示など様々な活動を通じて、学外の人々との交流を深めたいと願っています。さらに、学芸員の資格取得に必要な講義や実習を、できるだけ学内でできるようにしたいと考えています。

新しくできた九州大学総合研究博物館を、ぜひ、応援して下さいようにお願い致します。

